

## 令和5年度 第1回子ども・子育て会議 会議録

- 日 時 令和5年8月25日（金）10：30～11：33
- 会 場 沼田市役所 防災会議室 401
- 出席委員 今井委員、栞原委員、小林委員（会長）、鈴木委員、高橋委員、田辺委員  
登坂委員、福島委員、真下委員、宮田委員、和田委員 11名
- 欠席委員 浅沼委員、東委員、井上委員、櫛渕委員、田代委員、田中委員、田村委員、  
原澤委員、宮内委員 9名
- 事務局 角田健康福祉部長  
（子ども課）金子課長、阿部課長補佐兼保育係長、  
綿貫課長補佐兼子育て支援係長、生方主査  
（健康課） 鶴淵課長、角田課長補佐兼保健係長  
（学校教育課） 林課長
- 傍 聴 なし
- 配付資料 ・事前配付資料 資料1・資料2  
・当日配布資料 次第  
委員名簿  
川田保育園の今後の在り方について  
教育・保育給付認定（教育または保育の必要性の認定）  
・リーフレット「知ってほしい！「里親」のこと」

司会：金子課長

### 1 開 会

### 2 あいさつ

**事務局** 本日の出席委員数は11名。過半数の出席があり、沼田市子ども・子育て会議条例第5条3項の規定により、会議が成立していることをご報告する。本日は今年度第1回目ということで、皆様に自己紹介をお願いしたい。

**事務局** それでは、小林会長からご挨拶をお願いしたい。

**会 長** 新型コロナウイルスの感染拡大で、対面での子ども・子育て会議の開催は久しぶりである。国ではこども家庭庁ができたが、少子化になかなか歯止めがきかない。われわれが、子ども・子育て、出産についていかに考えていくべきかが重要である。  
本日は次第のとおり進んでいきたいのでよろしくお願いしたい。

**事務局** それでは、健康福祉部長の角田よりご挨拶申し上げます。

**部長** 本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。また、日頃より本市の福祉行政にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。本市は少子化がかなり進んでいる。近年のコロナ禍、物価高騰による生活困窮、働き方改革そういった支援の在り方が変わってきており、今転換期かなと感じている。委員のみなさまに多角的な視点からご意見をいただきたい。

**事務局** それでは、会議次第3の議事に移らせていただくが、以降の進行については、小林会長にお願いしたい。

### 3 議事

進行：小林昭紀委員

#### (1) 沼田市子ども・子育て支援事業計画進捗状況について

**課長補佐兼保育係長・課長補佐兼子育て支援係長・課長補佐兼保健係長**

委員の皆様にお渡ししてある、第2期子ども・子育て支援事業計画書の30ページから38ページの事業の実施状況について、毎年度、委員の皆様へ進捗状況をご報告させていただき、点検・評価を行い、施策の改善や強化につなげている。本日は令和4年度の実績についてご報告をさせていただく。

※資料1により説明

**会長** 説明の中で何かご質問があればお願いしたい。

～質問なし～

#### (2) 沼田市子ども家庭総合支援拠点について

**課長補佐兼子育て支援係長** ※資料2により説明

**会長** 説明の中で何かご質問があればお願いしたい。

～質問なし～

#### 4 その他

**会 長** まず、事務局から何かあればお願いしたい。

**課長補佐兼保育係長**

公立保育園の今後の在り方については、かねてより子ども・子育て会議の委員のみなさまにも検討やご意見をいただいた経過から、庁内の検討委員会で検討を重ねてきて、この度方針が出たので報告したい。

川田保育園は、地域の園児数や入園申込数が減少にあることや、建物が著しく老朽化していることで、段階的に規模を縮小しながら現在在園している子どもが卒園する令和 10 年度末をもって廃園することになった。7 月 7 日に川田地区の区長さんと川田保育園の保護者に説明をした資料をもとにお話したい。

まず、1 番目の市立保育園の園舎の状況だが、公立保育園の園舎については、改修・建て替えのための国や県の補助が平成 16 年度以降なくなり、改修・立て替えが大変難しい状況となっている。経過年数がだいぶ経っている園が多い。

つぎの 2 番目の本市の人口推計と保育園対象児童数の推計についてだが、人口推計では平成 27 度に 48,676 人だったものが、5 年度 45,816 人になり 2,860 人の減少となった、また、保育園対象児童人口推計だが、令和 2 年に 1,616 人だったものが令和 6 年度には 1,272 人になり 4 年間で 344 人も減っている。

つぎに 3 番目の庁内検討組織における検討の経過だが、沼田市行政改革推進本部で検討を重ね、平成 29 年 1 月に方向を決めたものが 4 件あった。1 つ目は施設が老朽化しているぬまた東保育園を平成 35 年（令和 5 年）度に廃止する。2 つ目は、ぬまた南保育園は平成 35 年度（令和 5 年）度に民営化する。3 つ目は川田保育園は、当面存続し、施設整備については川田小学校の余裕教室を検討する。4 つ目は、白沢保育園、利根保育園、多那保育園は当面現状のままとするが、園児数の動向によっては再度、統廃合・廃止も検討する。また、施設整備の必要性が生じた場合には、各小学校の余裕教室等の活用も含め、検討するという内容だった。

ぬまた東保育園は方針のとおり、令和 5 年度末に廃園になったが、ぬまた南保育園については、本市の人口推計や保育園対象児童数からもわかるとおり、園児数は年々減少傾向であり、民営化をしても安定的に運営するのが難しいと考えられ再検討という形になった。川田保育園も川田小学校の余裕教室の活用については、川田小学校が段差の多い地形で保育園としては使い勝手が悪く、保育園の園庭としての区分けも必要になるが、川田小学校は校庭が狭いため区分けも難しい。保育園児の場合はお昼寝用の布団を運び入れることも多いので、園舎の近くまで車が入れる必要性があることから、送迎用の駐車場の確保が必要になることや 3 歳未満児は必ず自園調理することが決められており、調理室が必要となり、小学校の普通教室を調理室に改修する費用が建て替えの場合と財政負担がそれほど変わらないとの見解があったため、

余裕教室の活用は難しいと判断した。その後、令和３年４月の沼田市行政改革推進本部において、ぬまた南保育園の令和５年度民営化を一旦休止し、川田保育園を含めて、新たに本市の公立保育園の在り方を検討していくことが決定された。令和３年５月にワーキンググループとして「沼田市立保育園の在り方検討委員会」を設置し、主に川田保育園を現地建て替えにより存続するか、川田小学校を施設利用により存続するか、ぬまた南保育園統合により廃園とするか、民営化により存続していくかという選択肢を設けて検討を重ねた結果、行政改革推進本部への報告を得まして、令和５年３月に今後の方針として表に記載されているとおりのこととなっている。ぬまた南保育園については、市内園児数が減少に向かう中で公立保育園としての特性を生かしつつ段階的に縮小とする、川田保育園の園児の受け入れ機能を補いながら存続していくことになった、川田保育園について、地域の園児数や入園の申込数が減少にあること、かつ建物の著しい老朽化をふまえ段階的に規模を縮小することとする。令和１０年度末をもって廃園することとした。白沢保育園、利根保育園、多那保育園は現状のままとする方針になったので報告をさせていただく。

資料の裏面になるが、４番目の川田保育園受入れ園児年齢は表のとおりとなる。

**会 長** ご意見やご質問があるか。

～質問なし～

**会 長** その他、委員さんからご意見やご質問があるか。

**真下委員**

チャイルドラインという１８歳までの子どもがかけられる電話の活動に関わっている。今日から学校が始まり、精神的に不安定な時期かと思われるが、夏の全国キャンペーンが８月２２日から９月４日まで始まっている。フリーダイヤルの電話が主だが、何年か前からチャットやネット電話の試みも始まっている。広報のポスターを貼っていただける所があったらお願いしたい。